



●技術こそキーワード

(株)吉田 SKT

代表取締役会長 吉田 由孝

最近の話題としては、サブプライムローン問題を基点とした世界経済の収縮が、一番多く取り上げられていると感じます。

この問題は、アメリカの低所得者向けに、住宅資金として低金利で貸し出し、後に高金利に変わる事を前提としたやり方であり、企画実施当初から問題視していた人達も多くあった様に聞いています。

しかし、実際にはこの方式が導入され、案の定と言うか予想通り、当初からの問題点が露呈され、その影響は、世界の経済に大きく広がっています。

この事は、アメリカを起点とした問題が、全世界の問題となる事を顕著に表していると考えられます。

今や、グローバリゼーションと言った言葉は一般化され、それが極めて「当たり前」に使われていますが、こういう「負の連鎖反応」も、我々の世界、日本にも多大な影響を与えています。

そこで、毎度言われている事ではありますが、如何に「不況」や「負の連鎖」から、我々が身を避ける事が出来るかと言う事になります。

私が思いますのは、技術こそがこの問題から逃れる重要な「鍵」となるのではないのでしょうか。

技術とは、単なる自己満足の技術ではなく、人々や市場のニーズに合った物でなければならぬものであり、汎用性や独創性が強ければ強い程、会社の発展や社会に、貢献度が大きい物となるでしょう。

しかし、複雑化し、又、高度化しているこの社会で、いきなりこの様な高い目標をかかげても、一朝一夕に創り上げられるものではないかと思えます。

まず、一步一步、身近にあるものの不具合や、不便さを見出し、それを解決する事が、より大きな目標に到達出来る手段かと考えます。

当社吉田 SKT は、ふっ素樹脂加工を昭和 38 年より開始し、当初はフライパンや炊飯器の内釜へ、食物が固着しない又は、しにくい性質を被膜処理により解決をはかる様にして参りました。そして、昭和 40 年代の後半からは、このふっ素樹脂の性質を、より汎用的にとらえ、家庭金物の世界から一般、産業用、工業用に利用していただく転換

を計って参りました。

昭和 40 年代に、「ふっ素樹脂加工」や「テフロン R 加工」と言っても、まだまだ普通の方々には知られていなく、企業の技術の方々に、説明をしにお邪魔しても、全く信じてもらえなかったのを記憶しております。

それでも、まず最初に質問を受けるのは、「それは油か？シリコンか？パラフィンか？」との質問でした。

そこで「いいえ、樹脂です」と申し上げると、殆どの方が「そんなものはあるはずが無い」との返答でした。そこから様々なサンプルや、目の前で簡単な実験をお見せして、やっと「へー？」と言って頂ける状況だったのです。

私の恩師の「一倉定先生」は「いくら役に立つ商品でも、世の中になかった製品や商品や方法は、非常に売りにくく、売れにくい」と言われた事を、身を持って実感致しました。しかし、今さら撤退する事も出来ず、本当に毎日毎日をお客様に信じてもらう事からのスタートで、現在に至っております。

最近ではやっと、「ふっ素樹脂加工」「テフロン R 加工」と言えば、皆様に認知して頂ける様になっておりますが、まだまだお客様からのニーズは厳しく、より複雑な機能を求められています。我々は、このお客様からの要求が絶える事は無いと信じ、又、このお客様からの要求を真摯に受け止め、求めに応じた製品作りを目指して行きたいと、日々努力を怠らない様にしております。

この様な、日々進歩していくお客様の要求に応える事は、我が社のみの単独で考えたり、研究するのでは無く、各企業の情報交換や、技術交換で、より完成しやすくなるのではないのでしょうか。

名古屋市の工業研究所や、振興協会の皆様からの御支援や、助勢、又、交流により現在の私共があると考えますし、私共の市場に於けるニーズを研究所の方々にフィードバックして、増々活性化した会社造りを目指して行きたいと考えております。

改めまして、この紙面をお借りして、本当に各企業の方々や、市工研、名工振の皆様方に御礼申し上げます。

「本当にありがとうございます。今後とも宜しく御願ひ申し上げます。」